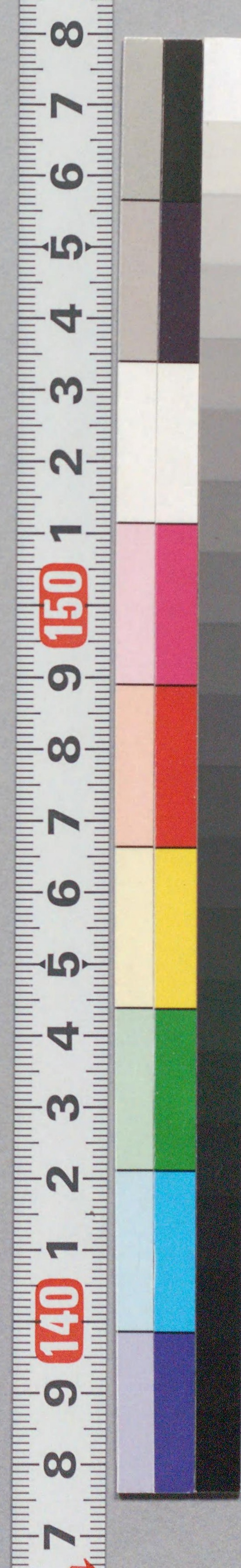


国立国会図書館

福助新 208-55



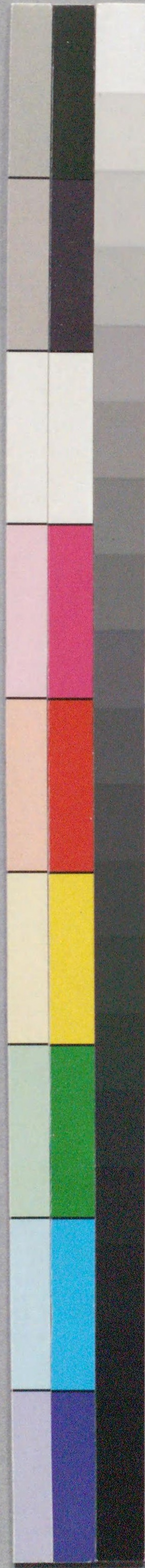
ガラス使用

外典
福助
新
全

208
55

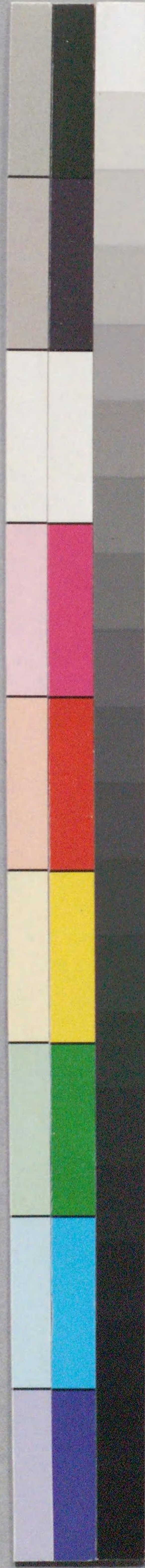
国立国会図書館 福助新 208-55

ガラス使用



序

紫色堂の奉忘小會合の諸君子落
 咄小隨のかけざとをんて庄さぬ御代
 とゆへは松風さんくも出侍野多自
 心もも前分の鬼の首とま洗濯せし
 吐もあしび又煤拂小嵐の巢より引出



7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9

しる友古もあねば取あへば子
仲名の心持娘不叶福助吐と表是
し中け接言と余慶の仕り小席より
事考り

文化乙丑春

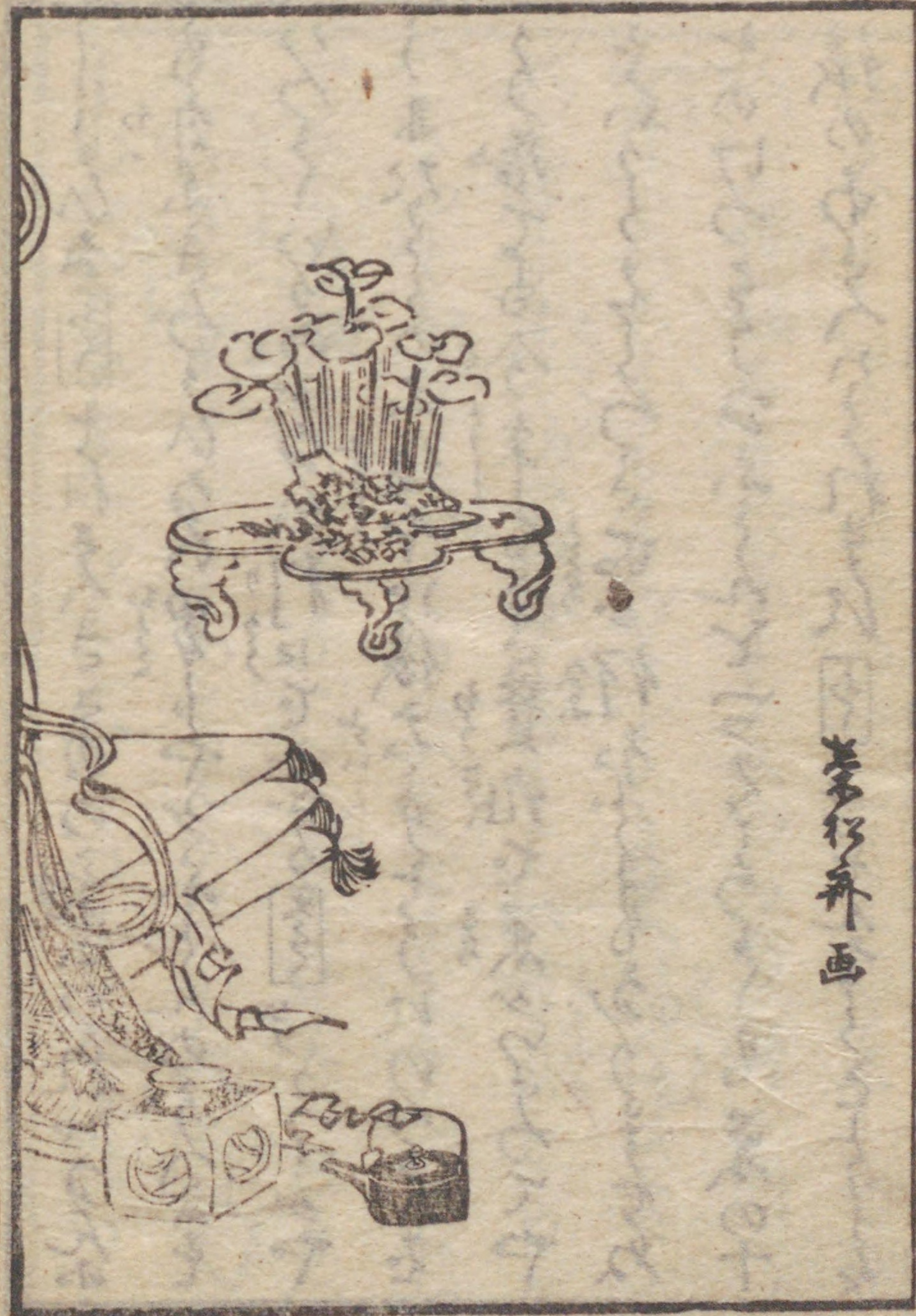
十返舎一九誌



大まぐ

邑二作

天ぞんぐくともよりなれば令根の
やもたいたいざふり娘吉祥天よふいむら
とろちやくとあんまきまがまていと仲之間の福
福あへこのけいさばさんそくねくこみ業ひ
らんむとぞとぶらが考程のまきおつればつが
大くそ神の真うりやどこの者や
さぬもわくこういさにまきとであらふか叶



茶行弄画

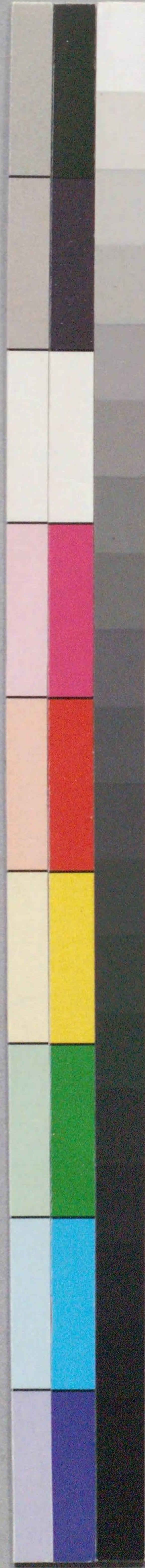
平化でござり

其二 祝言

邑二語

川の福女ゆかりの福祿ふくろくの仲人なこうどふとそ尾おく
 祝いわももまなれながたたくもたたふふよろよろここびびいいろ
 くくのの室むろ相あおおのの小こ槌づち延えん命めい袋ぶくろくくをを中なか
 ももののここのの福ふ女むすめふふゆゆづづああひひけけれれにに福ふ女むすめもも娘むすめ
 吉きち祥しやう天てんももたたままふふよよろろここびびいいろろああととのの原はら
 愛あいををてていいははららせせらられればば長ながりりいいかんかんななへへおお祈いのち

平化でござり
 其二 祝言
 邑二語
 川の福女の福祿の仲人ふとそ尾く
 祝ももまなれがたくもたふよろこびいろ
 くの室相おのの小槌延命袋くを中
 ものこの福女ふゆづあひけれに福女も娘
 吉祥天もたまふよろこびいろあとの原
 愛をていはらせられば長りいかんなへお祈



思おも邦くにへお主人しゅじんさんのおんあんなまりあつあつがたまひの
らまらうまをぬらうつとあまとおまおまでたまひま
つたてられむとどのやむとあんならまらうと
そらへとすうてたまひ

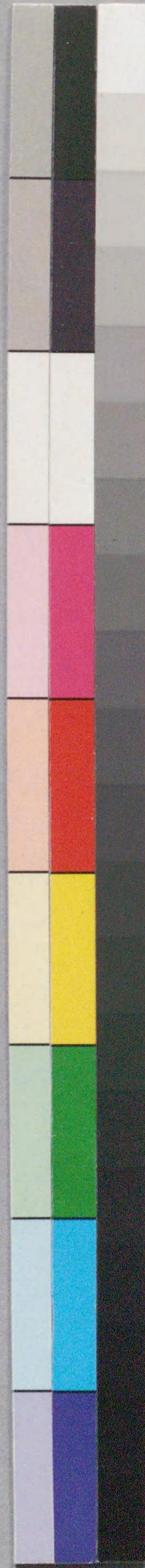
大おほ海うみ日ひ

炭すす方かた作さく

「たろくた三十日みそひのたまひりるはまづ甲かのえ子こど
しも豊あゆ年ねん小ちひ月づきおまらゆりおまらたまひ
日ひ主人しゅじんさんのおんあんなまりあつあつがたまひの

をうらやと知し年ねんの初はつかとよび豊あゆ福ふくかやえに
があづらの甲かのえ子こどもらまらうとあつあつが
さめてたまひりる小ちひ月づきおまらゆりおまらたまひの
ひまらうらとつんまよと目めおまらたまひとひん
ます又また来き年ねんの運うんのまて丑うしどーおまらうら
とふふとんのうらと字あざも積たまりのこととらう
運うんのゆりからとよまけぬとらうとまらうら
とらうと始はじめおまらうらと茶ちや瓜うりとらうとらう
とらうと始はじめおまらうらと茶ちや瓜うりとらうとらう

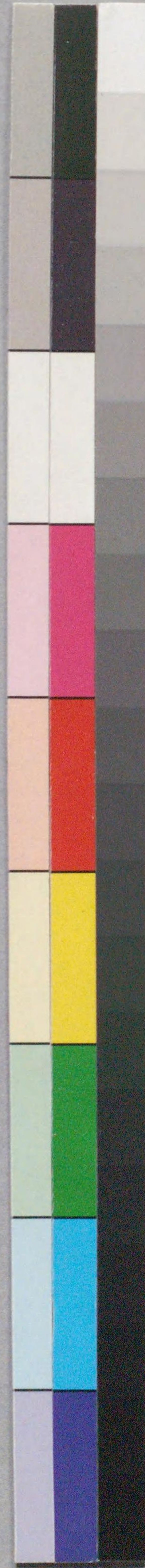
五





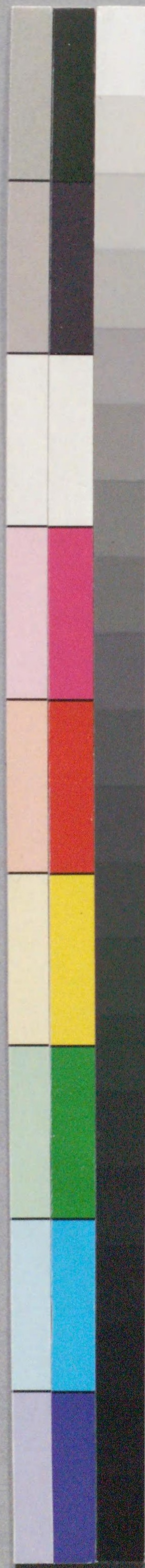
が出来さう 因か 一ふいふ 舟まをうとむこ
あうと二人そ 酒をくく かりとくく
やくとくふのとうの 悪魔外に大
こくれつら 目げとくんとす 福文と
やうくあるとめく ことぶふんつ ねくわつ大
さうだふなり 大もさうね 福文と
福文 福文 福文 福文 福文 福文
りませぬ 鬼も 福文でござりと 福文大

く二人と舟と 引まけぬ 福文内ふつ
鬼の外に出おれくとつ 福文 福文
まけぬ 福文 福文 福文 福文
如房 買 鬼武作
叩やひらうむきと 福文と 福文
ども大あまのさかもの 福文 福文
しくきわる 福文がある 福文
のちより 福文がよくと 福文



みぬあつていざかきつれがちきふられくをど
かく麻マがゆきあつとつらもをなくおつんまきら
いろくくたぬんくありてりくぬやアそれク
らぶらぶもあておらんまんく一一つねでぶす
るのんカカカわらわいぞらんすふああとこもふは
まらていのみカカカんざんすくくねのねうぢ
トヤアぢせんえんカ何カをぬつていんぶカん
あうごめんまんートうくうむたふまうてぼ

と麻カひの福めまのあつていざカあつていざの
ろくえんくくくくく麻カひののネゆと
りおとされカぬカがまカくおらんまんを公
あうカ麻カくくもかうざんもまカなうびのし
てくくくくこれで麻カへまカをカをア又うを
色カ事カ 鬼武作
浅カまの申見ツふあカる今戸カ燒カのおふくとカは



美^くすれの福^ふめとつり^ついろごと^ごな^なら^らぢ
人^{ひと}目^め瓜^う志^しの^のんで^で忍^{しの}ひ^ひお^おひ^ひお^おく^くの^のつ^つら^らめ^めん^ん
福^ふさんへ^へお^おま^ま入^いり^り上^か方^かう^うら^らら^らぐ^ぐま^まお^おら^らて
江戸^{えど}者^{もの}の^のこ^ころ^ろこ^ころ^ろあ^あら^らも^もお^おま^まい^いえ^えん
ど^どう^うと^とぶ^ぶど^ど女^に房^ぶう^うと^とお^おち^ちの^のお^おり^りと^とれ^れの^の女^に
お^おく^くつ^つま^まそ^そら^らら^らく^くお^おく^くれ^れと^とり^りが^が福^ふめ^めと^とい^いふ^ふん
せ^せう^うら^らら^らが^がた^たと^と人^{ひと}國^{くに}の^のあ^あら^らび^びて^ても^もお^おら^らら^らお^おや^やら
た^たり^りお^おこ^こと^とは^はど^どを^をお^おつ^つが^がと^とお^おり^りて^てお^おら^らら^らお^お入^い

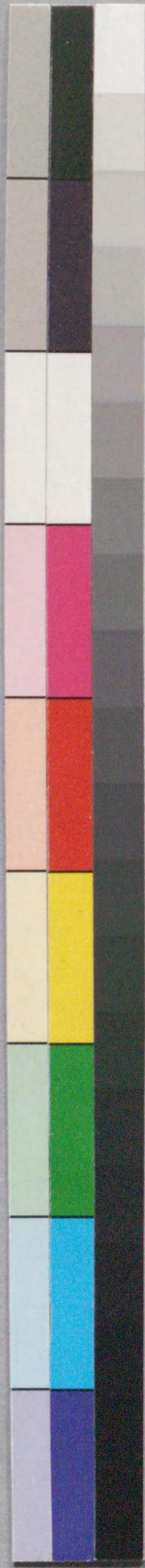
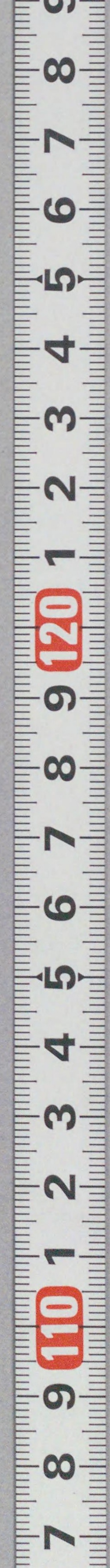
ゆ^ゆい^いお^おや^やア^アお^おら^られ^れく^く図^ずき^きや^や又^{また}お^おら^らへ^へつ^つり^りの^の後^ご
夕^ゆ鼻^びお^おつ^つま^まんで^でお^おみ^みめ^めも^もよ^よう^うか^かど^ど除^ぞま^まど

叶福女

邑二作

り^りら^らい^いめ^めこ^こと^と人^{ひと}あ^あら^らま^まり^りハ^ハコ^コウ^ウえ^えん^んと^とい^いこ^ころ^ろの^の報^{ほう}
え^えせ^せど^どが^がア^アの^のお^おを^を福^ふめ^めが^がつ^つん^ん世^せい^いご^ごう^うせ^せん^ん
お^おや^やう^うと^とせ^せと^として^{して}内^{うち}中^{ちゆう}が^がら^らん^んな^な福^ふめ^めの^のよ^よう^うと^とせ^せ
よ^よく^くお^おま^まと^とお^おて^てえ^えさ^さり^りー^ーし^して^てい^いら^らの^のあ^あく^くか^かい^いの^の
ひ^ひら^らい^いお^おが^がた^たら^らく^くの^のよ^よう^うと^とせ^せと^とれ^れよ^よし^しら^らの^のあ^あく^くま^ま

九



もあつたらんちのちがたのちがたひひあつたらん
ちがたのちがたもあつたらんちがたのちがた
のちがた あつたらん ちがたのちがたのちがた
んり あつたらん ちがたのちがたのちがた

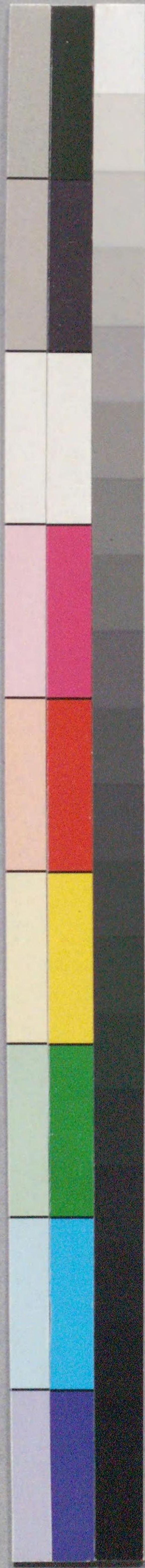
けんくさ

邑彦作

子 ^{てん} ねやの見世あつたらんちがたのちがたのちがた
あつたらんちがたのちがたのちがたのちがた
ちがたのちがたのちがたのちがたのちがた
ちがたのちがたのちがたのちがたのちがた

大きひがあつたらんちがたのちがたのちがた
ちがたのちがたのちがたのちがたのちがた
ちがたのちがたのちがたのちがたのちがた
ちがたのちがたのちがたのちがたのちがた
ちがたのちがたのちがたのちがたのちがた
ちがたのちがたのちがたのちがたのちがた
ちがたのちがたのちがたのちがたのちがた
ちがたのちがたのちがたのちがたのちがた

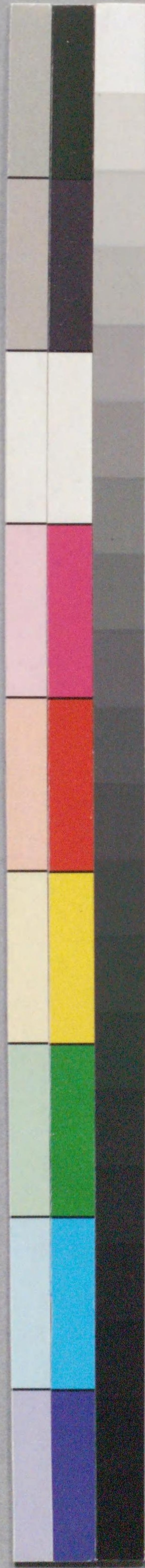
十



かの福多のどよもひがうらうらとだてこまる
ゆるんぞ一やうぶいとらじあておのり
まじらうくそんとして金なるまじら
あうまじら米をとおしてさうをけげき
ふやまじらうり果腹をとおしておもしろ
そんとしてうらうらつらめくやまじらうつ
ても同や拂はらの財ふると同をえままねとまけ
てよろこばやうづらふらうり一両やまじら

またぬいろくまふまふおしてそんとする
まじらもどよもひうらうらうらうらどよま
うんぞやまじらうらうらてそんのつくせうぞら
はあたまのうらと番段とよんでさうぶんを
まじらまじらむねをとおしておもしろい
くかうらうらまじらまじらまじら十井しせいそのら
なまじらでげらうらうら

新巻



かんこうおとすはてはこもくしんしんあつちりり

○火の見

まへゆらぎとてたなよのぶらりいんしんあつちりり
があれそよと。くろくおだるひやうしよたひん
あつちりあねるは男どんぐろく海の中へおち
ればゆりたまる奥が居て。そとらつてとて
福とたまはれは男とるらむらよの物子のよなる

二二

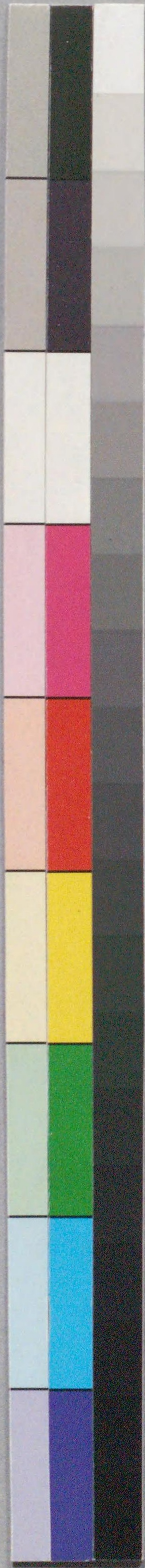
ゆのよぶらりいんしんあつちりり
あつちりあねるは海の中へおち
福とたまはれは男とるらむらよの物子のよなる
あつちりあねるは男どんぐろく海の中へおち
ればゆりたまる奥が居て。そとらつてとて
福とたまはれは男とるらむらよの物子のよなる
あつちりあねるは男どんぐろく海の中へおち
ればゆりたまる奥が居て。そとらつてとて
福とたまはれは男とるらむらよの物子のよなる
あつちりあねるは男どんぐろく海の中へおち
ればゆりたまる奥が居て。そとらつてとて
福とたまはれは男とるらむらよの物子のよなる

○めぢりしん

廿^セらるで^んのり^め解^けをつ^く時^どか^ゑある^い医^い者^や
さ^らぬ[。]候[。]あ^らる[。]一[。]解^けをつ^くこ^もで^まさ^せで[。]
可^いま^まに^けこ^もい^まの^いろ^もち^ち斗^た
の^ちと^つり^ぬも^もあ^やめ^がら^らし^どい^まま^ま
志^あめ^んあ^るま^らう[。]よ^しこ^ろが^いま^まを[。]
こ^いし^し屍^しと^まら^うて^あら^ませ^うら^う。

二尺

あ^らる^いめ^のひ^ひだ[。]お^しつ^きな^られ^ませ[。]
そ^のい^まま[。]と^うど^いち^とは^くあ^らが[。]
こ^いま^まに^けこ^もい^まの^いろ^もち^ち斗^た
さ^らぬ[。]候[。]あ^らる[。]一[。]解^けをつ^くこ^もで^まさ^せで[。]
可^いま^まに^けこ^もい^まの^いろ^もち^ち斗^た
の^ちと^つり^ぬも^もあ^やめ^がら^らし^どい^まま^ま
志^あめ^んあ^るま^らう[。]よ^しこ^ろが^いま^まを[。]
こ^いし^し屍^しと^まら^うて^あら^ませ^うら^う。



208
55

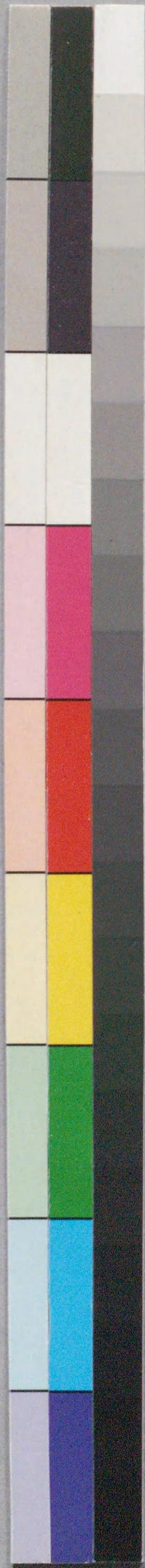
村 榮邑堂

東武通油界

村田屋治郎兵衛板

三ノ

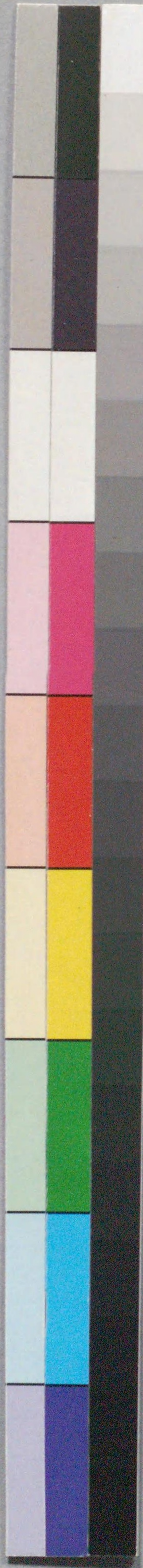
Handwritten Japanese text in a vertical column, likely a signature or seal impression, enclosed in a rectangular border.



208
55

国立国会図書館 福助噺 208-55

ガラス使用





国立国会図書館 福助噺 208-55



ガラス使用

